

海外安全対策情報（令和5年4月～12月）

1 社会・治安情勢

2022年2月24日に開始されたロシアによるウクライナ侵略に関連して、ベラルーシ国内には引き続きロシア軍と民間軍事会社「ワグネル」の部隊が駐留しています。

依然としてウクライナとの国境周辺地域では軍事衝突による大きな被害が発生する可能性もあり、極めて危険な情勢です。

欧米各国と同様、日本もベラルーシに対し、ロシアによるウクライナ侵略に関与したとして制裁を課しており、日本人であることを理由に危険が生じる可能性も懸念されます。

2021年以降、欧州各国はベラルーシとのフライトを停止しています。また、国境検問所も部分的に業務を停止しており、今後国境が全面的に閉鎖され出国が困難となる可能性もあります。

また、ロシアによるウクライナ侵略の影響は、今後も先行きが不透明ですので、ベラルーシに滞在中の邦人の皆様におかれましては、大使館との連絡を密にするようお願いいたします。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）2024年3月にベラルーシ国家統計委員会が発表した犯罪統計によれば、2023年のベラルーシにおける犯罪総数は85,374件で、前年と比較し3.6%減少しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	20,708件（前年比19.3%減↓）
イ 恐喝	69件（同33.6%減↓）
ウ 詐欺	11,715件（同58.6%増↑）
エ 暴力犯罪	3,401件（同5.8%減↓）
オ 殺人及び殺人未遂	224件（同10.4%減↓）
カ 重傷傷害	564件（同16.8%減↓）
キ 強盗	988件（同19.8%減↓）
ク 強姦及び強姦未遂	110件（同7.6%減↓）
ケ 薬物	4,139件（同9.1%減↓）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2023年1月～12月における主な事件は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 1月11日、未公認野党「真実を語れ」のアンドレイ・ドミトリエフ共同代表が、首都

ミンスクの自宅近くで治安部隊に拘束された。人権団体「ヴァスナ（春）」が報じた。逮捕理由や容疑は不明。ドミトリエフ氏はオクレスチナ拘置所で拘留されている。人権活動家によれば、この施設では政治犯に対する拷問が複数報告されている。ドミトリエフ氏は、2020年の大統領選挙でルカシェンコ大統領の対立候補の一人だった。

イ 1月26日、欧州に亡命を希望して不法入国しようとしたイエメン人男性3人が、ベラルーシ・ポーランド両国の国境地帯で凍死した。これらのイエメン人は、イラン人が後押しするフーシ派の「犯罪」と国内の悲惨な人道状況から逃れようとしていた。

ウ 2月9日、捜査委員会は、2022年10月に指定薬物メフェドロン25kgをベラルーシに持ち込もうとしていた男性を逮捕していたと発表した。

エ 2月9日、タクシー強盗犯がベラルーシ北部ヴィテブスク州で拘束された。首都からミンスク州イェルニツア村まで向かう途中、運転手をナイフで脅し、タクシーごと盗んだ模様。

オ 2月10日、ベラルーシの裁判所はベラルーシ国内でロシア軍の移動を遅らせるために鉄道網に対する破壊工作に関与したとして、男2人に禁固22年の判決を言い渡した。人権団体「ヴァスナ（春）」が明らかにした。「ヴァスナ」によれば、両名が裁判にかけられ、反逆やテロなどの5つの罪で有罪になった。

カ 2月17日、内務省は中東等からの不法移民94人を拘束したと発表した。出身国はアフガニスタン、パキスタン、イエメン、イラク、シリア、アルジェリア、エジプト、モロッコ等。欧州連合（EU）加盟国に向かうため、ロシア経由でベラルーシ入りしていた。うち27人を国外追放。7人は身分証明書がなく、調査のため拘留中。54人に行政罰の上で自発的な出国の権利を付与。2人は自発的な出国を拒否し、拘留中。

キ 2月20日、ポーランド外務省報道官は、ベラルーシがポーランドの外交官3人を追放したと発表した。国外退去を求められているのは、ベラルーシ西部グロドノに駐在している領事2人を含む3人。同報道官は「彼らは22日中にベラルーシから退去するように求められている」、「我々は適切な対抗措置を検討している」と語った。

ク 2月20日、内務省は48kg（末端価格250万ドル以上）の麻薬を押収したと発表した。これはベラルーシ全国・ロシアの一部地域で、インターネットを通じた麻薬の販売を行う「Scorpion」での販売のために持ち込まれたもの。ベラルーシでは麻薬販売

のネットワークの摘発が続いており、2022年には19件、2023年は2月20日現在で4件摘発されている。

ケ 3月14日、ベラルーシの人権擁護団体は、直近1週間で心理学者や精神科医数人を含む100人余りが拘束されたことを指摘し、権威主義的な政府による反対意見に対する新たな厳しい取り締まりについて警鐘を鳴らした。人権団体「ヴァスナ」によれば、首都ミンスクだけでなく、ベラルーシの東部でも西部でも多くの逮捕者が出ている。当局は野党活動家やジャーナリスト、医療従事者、射撃スポーツクラブのメンバー、ドローンを扱う人々を特に拘束している。「ヴァスナ」のパヴェル・サペルコ弁護士はAP通信に対し、最近、ミンスク近郊に駐機していたロシアの軍用機に対して攻撃があったことを踏まえ、当局はその攻撃に関与した疑いのある人々に対して「徹底的に家宅捜査」を行っていると言った。

コ 3月15日、ベラルーシ南西部ブレストで、メフェドロン52kgをベラルーシに持ち込もうとした外国人男性（妻子同行）が逮捕された。

サ 3月19日、国家保安委員会（KGB）は、グロドノ市内で、テロ容疑で拘束しようとした外国人が抵抗したため、無力化したと発表。

シ 4月4日、テルテリ・ベラルーシ国家保安委員会（KGB）委員長は、ベラルーシでは何十人ものウクライナ人が、テロ行為の未遂や諜報・破壊活動、スパイ活動等で拘束されているとした上で、拘束された者の中には、ベラルーシ領内で諜報活動を行っていた者やバルト諸国の国民もいる旨付言した。同委員長によれば、外国の情報機関は最近、ベラルーシに対するスパイ活動を強化している。

ス 4月6日、当局は、2月中旬にグロドノで拘束した男性から、麻薬「4-CMC」約1kgと向精神薬44.6kgを押収したと発表。

セ 4月6日、首都ミンスクの裁判所で未公認野党「真実を語れ」のアンドレイ・ドミトリエフ共同代表に対し、2020年の大統領選挙の結果に抗議する広範なデモに参加したことを巡り、禁錮1年6か月が言い渡された。ドミトリエフ氏は2020年に行われた大統領選でルカシェンコ大統領の対立候補の1人として立候補していた。

ソ 4月7日、ヴァレリー・ツェプカロ元駐米大使に対し、過激主義組織を形成し、ベラルーシの信用を貶めた等の罪で本人不在のまま禁錮17年の刑が言い渡された。裁判は非公開で行われた。同氏には罰金1000基本単位（3万7千ルーブル（約1万3千ドル弱））も言い渡され、5年間公職に就くことも禁じられた。罪状には権力掌握の呼びかけやルカシェンコ

大統領に対する中傷なども含まれていた。ツェプカロ氏は2020年の大統領選挙に出馬しようとしたが、中央選挙管理委員会に立候補が認められず、ロシアに逃亡した。同氏はその後、ウクライナ、ラトビア、ギリシャを転々とした。ベラルーシの人権団体「ヴァスナ」によれば、ツェプカロ氏は国選弁護士と接触できなかったため、裁判で弁明したり、自らに対する裁判の詳細を知ったりすることができなかった。

タ 4月21日、「大統領付属機動・分析センター（OAC）」は、2022年にベラルーシの機関に対して3.2億件以上のサイバー攻撃が行われたと発表した。攻撃の大部分は外国から行われており、主な攻撃対象は、「国家標準化委員会」、「国立マーケティング・センター」、国営「ベラルーシ鉄道（BelZhd）」、国営肥料メーカー「ベラルーシ・カリ」、複数の医科大学等との事。

チ 5月3日、ベラルーシの裁判所は、反体制活動家のロマン・プロタセヴィチ氏に禁錮8年の刑を言い渡した。同氏は、2021年5月23日に、アテネからビリニュスに向かって飛行していたライアンエアー機に搭乗中、ミンスクに強制着陸させられ、ベラルーシ当局により交際相手のロシア国籍の女性とともに逮捕されていた。同氏の逮捕に欧米諸国は憤慨し、ある首脳はこの強制着陸事件に関し、国が後押しするハイジャックも同然だと述べた。

ソ 5月5日、ポーランド国境警備隊は、不法移民の幫助による逮捕者数に関し、2022年通年で401人だったが、2023年は5月4日現在既に280人であると発表した。幫助者の多くはウクライナ人、ウズベク人、ジョージア人、ポーランド人でベラルーシ人は多くない模様。ポーランド・ベラルーシ国境で確認された不法移民の数は、2022年通年で15,700人だったが、2023年は5月4日時点で8,300人。不法移民の流入経路は、2021年は直接ベラルーシ入りしてポーランドに入ろうとしていたのに対し、現在は、まずロシアに入ってからベラルーシを経由してポーランドに入ろうとするようになっている。

テ 5月15日、ベラルーシ当局は、2022年10月3日に摘発した外国人2名に対し、強化刑務所での17年間の自由剥奪刑と罰金200基本単位（7,400ルーブル（約2,560ドル））の判決を言い渡した。両名は犯罪組織に所属しベラルーシ経由で欧州からロシアへの麻薬の運搬に従事。ポーランドから乗用車で大麻樹脂70kg以上を密輸しようとしていた。

ト 6月12日、ベラルーシ南東部の都市スヴェトログルスクでメディア関係者9人が拘束されていたことが明らかになった。9人に対する罪状は明かにされていないが、一部の報道によれば、刑法第19条第11項（過激派の活動への呼び掛けを含む情報製品の配布や制作、保管）に基づいて裁かれる模様。

ナ 6月26日、ベラルーシ南西部ブレスト市で通行人を殴り携帯電話で撮影した未成年3人への判決が下った。3人は酒を飲んだ後、ブレスト市民2人に絡み、そのうち1人が頭蓋骨損傷になるまで殴られた。彼らの行為は携帯電話のカメラに撮影されていた。彼らの親は被害者に対し賠償金8,000ルーブルを支払う。

ニ 6月27日、内務省発表によると、ベラルーシ北東部ヴィテプスク市内で麻薬の原料となるケシ297本、合計27kgを摘発。

ヌ 6月29日、内務省は、ロシアに1万錠の合成麻薬MDMAを持ち出そうとしたタクシー運転手を逮捕したと発表した。

ネ 7月4日、内務省は、ミンスク市で、麻薬のメフェドロンを服用して運転していたタクシー運転手が検挙したと発表した。

ノ 7月11日、政治犯アレシ・プーシキン氏が死亡したと米国系メディア「ラジオ・スヴァボダ (RFE/RL)」が報じた。同氏は20年以上前の作品で「ナチズムを宣伝」していたとして2021年3月30日に逮捕。2022年3月末、厳重刑務所での5年の自由剥奪刑が宣告されていた。同氏は抗議のため、2022年3月25日に割腹自殺を図り、懲罰房に13日間送られた。その後も複数回、刑務所当局により拘留条件が厳しくされていた。2024年7月10日、同氏は意識不明の状態でグロドノ市内の病院に搬送。手術が行われたが、11日未明、心停止し死亡。同氏は最後に親族に送った手紙の中で、最近体重が20kg減少したこと、腎臓を患っているため腰用のベルトを送ってほしいこと等を記していた。

ハ 7月11日、内務省はミンスクで、17歳の少年2名から麻薬「 α -PVP」1.5kgを押収したと発表した。2名は末端の販売人向けに麻薬を卸していた。2名とも刑事告訴されており、最大で12年の自由剥奪刑が宣告される可能性がある。

ヒ 7月25日、内務省は、オンラインストアで働いていたベラルーシ人5人から、約50kgの麻薬を押収したと発表した。一部はロシアに輸送されていた模様。

フ 7月26日、ベラルーシ西部グロドノの裁判所において、パヴェル・モジェイコ氏に禁錮6年の刑が言い渡された。同氏は、反体制政治家の活動取材したことを理由に過激主義的な活動に共謀しているとして有罪とされた。同氏はポーランドを拠点にベラルーシ語で放送するテレビ局「ベルサト」などの報道機関に勤務していたとされ、反体制派や独立系記者、人権活動家に対する1年間にわたる取り締まりの一環で著名であった。ベラルーシ当局は「ベルサト」を過激主義に認定している。ユリア・ユルギレヴィチ弁護士も、今月獄死し

た反体制派の芸術家アレシ・プーシキン氏などベラルーシの政治犯に関する情報をモジェイコ氏に提供したとして禁錮6年を言い渡された。ユルギレヴィチ氏は約18年にわたって法律実務に携わり、人権活動の弁護を行ってきたが、2022年2月に弁護士資格を剥奪されている。

ヘ 7月31日、ヴィデプスク地方検察庁は35歳の男性に対する刑事事件を裁判所に送致した。公判前の捜査で男は2014年から2021年にかけてSNSを通じて未成年者とわいせつな内容の私信を交わしていた。この刑事事件では、103人が被害者と認定された。

ホ 8月10日、内務省は、メフェドロン200gを販売用に小分けして所持していた28歳の外国人女性を逮捕したと発表した。麻薬捜査犬により、さらにメフェドロンと α -PVP合計1kg以上も発見。

マ 8月18日、ドイツ連邦警察によれば、ベラルーシ・ポーランドを経てドイツ入りする不法移民の数は、2022年上半期には29,174人だったが、2023年上半期には45,338人に増加している模様。

ミ 8月22日、内務省はブレスト州中部イヴァツェヴィチで、麻薬の流通に関与していた男性4人を逮捕したと発表した。約5kgの α -PVPとメフェドロンも押収。
また同日、知人の女性に麻薬を与えて死亡させた罪で、モギリョフ州ボブルイスクの男性を逮捕したことも発表。逮捕された男性は「運び屋」を引き受けたが、麻薬を横領。
 α -PVPを自分で使用し、知人の女性にも与えたところ、女性は死亡した。

ム 8月29日、内務省は、叔父のアパートの部屋で大麻を栽培していたヴィテプスク州ノヴォポロツクの17歳の少年を逮捕したと発表した。また、ベラルーシ東部モギリョフの検問で、同州出身者の車から麻薬メフェドロン10kgを発見したことも発表。
同日、ベラルーシ南東部ゴメリ市で、麻薬を受け取る報酬として麻薬の売買に関する落書きを繰り返して逮捕されていた男性に、11年の自由剥奪刑が宣告された。
同日、ブレストの国境検問地点での税関検査中、ベラルーシ人の男性が持つ小銭入れから、大麻の有効成分であるテトラヒドロカンナビノールが検出された。その後の荷物検査で、同男性の鞆から大麻樹脂の残滓も発見され、男性は逮捕された。
同日、モギリョフ地区で、ミンスク出身の青年男性2名が、麻薬取引上のトラブルの相手の自宅に火炎瓶を投入。しかしながら住所が間違っており、無関係の年金受給者の女性宅が被害を受けた。女性は自ら消火し、大事には至らず。

メ 9月4日、内務省はミンスクでインド人不法移民40人を拘束と発表した。不法移民ら

はベラルーシの査証を保持しておらず、ベラルーシ人女性の家に滞在。ロシアから陸路でベラルーシに入り、ラトビアに向かおうとしていた。

モ 9月18日、ミンスク市裁判所は、ミニバスとの接触事故により13人を死亡させたトラック運転手に懲役7年を言い渡した。

ヤ 9月25日、国家国境委員会は首都ミンスクの倉庫で、イランから送られ英国へ向かうジュース用の紙パックに詰められて密輸されたヘロイン 330 キロを押収した。トルコ国籍の4人とベラルーシ国籍の1人が拘束された。

ユ 10月2日、ベラルーシ内務省は、9月中に10人以上のミンスク市住民が特殊詐欺の被害に遭遇し、約20万ベラルーシルーブルを送金したと発表した。被害者達は法執行機関や銀行の職員を名乗る見知らぬ人物から電話を受けていた。

ヨ 10月10日、ピンスクで3人の男が偽造米ドル販売容疑で拘束された。男たちは街の路上で偽札を売っており、通行人に有利なレートで買うよう持ちかけていた。彼らは合計で少なくとも千米ドル相当の偽造通貨を販売していた。捜査の結果、3人とも過去に刑事訴追されていたことが判明した。38歳の被拘禁者は窃盗、詐欺、恐喝、32歳の被拘禁者は窃盗と飲酒運転、41歳の被拘禁者はフーリガンで起訴されている

ラ 10月19日、ミンスク地方裁判所は、3歳の息子を拷問し殺害した父親に死刑を宣告した。ベラルーシでは女性に死刑は適用されないため、殺害された男の子の母親には25年の禁固刑が言い渡された。彼らは子供に食事を与えず、疲労困憊させ、子供を縛り上げ、殴打していた。事件記録から明らかのように、2023年1月14日、被告らは泥酔状態で、赤ん坊に少なくとも9回の殴打を加え、うち7回は頭部を殴打した。赤ん坊は死亡した。

リ 10月26日、カリンシュ・ラトビア外務大臣は、昨今25人のラトビア人がベラルーシで拘束された旨発言。ほとんどが政治的な動機によるものであるという疑いがあると付言し、ベラルーシへの渡航を控えるよう改めて呼びかけた。

ル 11月28日、捜査委員会は、反体制活動家の住居に対する家宅捜索をベラルーシ全土で展開した。反体制組織「国家危機管理対策局（NAU）」を率いるパヴェル・ラトウシュコ元文化大臣は、首都ミンスクにある自宅や、全国の数十人の反政府活動家とその親族のアパートが当局によって家宅捜査されたと語った。同氏によれば、家宅捜査の際、自動小銃で武装した警察がドアを破壊した。捜査委員会は、今回の家宅捜索は2020年の大統領選後に抗議活動を管理するために野党が設置した「調整評議会」の活動に対する犯罪捜査の一環だと述べ

た。

レ 12月4日、麻薬密売グループが検挙された。麻薬取締局が高速道路上で検問し、51歳の男を拘束。車内から向精神薬パラメチルエフェドロン約4キログラムを押収した。男はベラルーシ国内で小規模な卸売業者に販売していた。

ロ 12月7日、反体制派に対する取り締まり強化の一環で、ゴメリ州スヴェトロゴルスク在住の記者2人が拘束された。ベラルーシ記者協会が発表した。同協会によれば、「ラナク」テレビのユリア・ダウレタワ編集長とリュドミラ・アンデカ記者は、過激派の活動に貢献したとの容疑でベラルーシ南東部のスヴェトロゴルスクで拘束された。拘束された2人はベラルーシ国内の抗議デモ取材してきた。有罪が確定した場合、7年以下の禁錮刑を言い渡される。

ワ 12月14日、ベラルーシ内務省国内軍が公表した国内軍第3310部隊（首都ミンスク市ウルチエ）の活動を映した動画中で、「ワグネル」の旗が2度にわたって映し出された。同日、プリディバイロ・露国営TV「ロシア・トゥデイ（RT）」特派員は、「ワグネル」のマークと旗が第3310部隊で正式に登録された旨発信。

ヲ 12月22日、内務省国内軍が公表した国内軍第3214部隊（首都ミンスク市ウルチエ）の写真による活動報告には、カルペンコフ内務次官兼国内軍総司令官が「ワグネル」と記されたワッペンをついた防寒着を着用した姿も含まれていた。翌23日、アザリョノク国営「首都テレビ（STV）」司会者は、第3214部隊の基地においてロシア国旗や「ワグネル」旗も掲揚されているとする写真を発信。

ン 12月24日、人権団体「ヴァスナ」は、年初から同日現在で、帰国して拘束されたベラルーシ人は少なくとも125人にのぼると発表。また、同日、独立系ニュースサイト「Mediazona Belarus」は、クリスマスシーズンにかけてポーランドからベラルーシへの帰省ラッシュが続く中、政治的理由で1名のベラルーシ人が国境で拘束された旨報道。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。